

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590200095		
法人名	医療法人爽林会		
事業所名	グループホームまごころ		
所在地	宮崎県都城市高城町穂満坊3213-2		
自己評価作成日	令和3年1月10日	評価結果市町村受理日	令和3年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaiogkensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action\\_kouhyou\\_pref\\_search\\_list\\_list=true](https://www.kaiogkensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true)

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和3年2月18日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

重度になっても、安心安全、ゆったりと湯に浸かり、心地良さを感じてもらいたいとの職員の希望もあり、特浴を導入している。利用者様だけでなく、ご家族にも、喜んで頂いている。また、職員の介護負担の軽減にもなっている。ホールからは、畑が見渡せ、季節の花々が見られ、閉塞感のない居心地のよい空間となっている。畑では季節の野菜が収穫でき、漬物にしたり、おやつを作ったりして、収穫の喜びも味わう事ができる。コロナ禍のなか、面会も難しい状況ではあるが、ホームでの生活の様子をポストカードにしたり、毎月写真入りのカレンダーを作成し、ご家族に届けている。また、リモート面会も開始し、ご家族との絆が途切れないように取り組んでいる。また、併設の診療所と医療連携を組んでおり、適切な医療が受けられる状態にある。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは医療機関、デイサービスを併設した敷地内にあり、医療との連携や看護師の有資格者が数名在籍し、重度化した際の体制づくりに取り組んでいる。また、特浴を導入し、ゆっくりと入浴が楽しめるようにしたり、地域の方の協力の下、施設内の畑で野菜を収穫するなど、居心地の良い環境づくりに努めている。感染対策のため、リモート面会や毎月の写真入りカレンダー、生活の様子をポストカードにして家族に安心と絆が途切れないよう支援している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、ホールに掲げ、入所時にはご家族にも説明している。また、スタッフ一同実践に取り組んでいる。	玄関とホールに理念を掲げて、常に意識できるように職員が共有し、ケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の活動にも積極的に参加し近隣の方々とも顔見知り、気軽に相談できる環境である。	現在は感染症対策のために、控えているが地域の清掃活動、地域の祭り、敬老会等、地域の方々と一緒に活動し、避難訓練等の情報共有を書面で行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方々にご協力いただき、防災訓練等おこなっている。その際、ホームの特性や、認知症の方への理解を深めていただくため、情報を発信し、ご意見を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、利用者の状況や、行事報告を始め、身体拘束廃止や、高齢者虐待防止等議に取り上げ、ご意見を頂き、サービス向上に取り組んでいる。	現在は感染症対策のために、書面での開催を中心に行い、避難訓練などの情報共有など地域との連携に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市から発信される情報を基に、疑問など、助言を頂きながら、良い協力体制にある。また、災害や必要物品など、常にサポートを頂いている。	市主催の研修への参加や、現在の感染症対策などの情報共有やその対策における連携を図るよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の職員研修を行っており、常に情報交換しながら、拘束のないケアに努めている。やむおぼえず行う場合は、ご家族に十分説明し同意を頂くようにしている。	家族に利用者の状況説明を十分に行い、身体拘束と同時に転倒防止対策を行っている。職員全体として身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修に、職員が参加し業務会議で報告し、職員共通の認識を持ちケアしてる。また、薬も専門医と相談しながら必要最小に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用している方はいないが、研修会に参加し、必要時にスムーズに活用できるように支援できるように備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、丁寧な説明を行い、納得して頂いたところで、署名捺印して頂くようにしている。また、面会時等に声かけし、不明な点がないかなど尋ねやすい環境づくりに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍においては、面会も難しく、電話連絡の際に、状況報告したり、要望や意見を尋ねるようにしている。また、リモート利用時に、声かけしている。	利用者の状況報告を行いながらその会話中の意見をケアに生かすよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務会議等を利用し提案や、意見交換の機会を設け、改善に繋げている。また、運営推進会議においても議題に取り上げ反映させている。	感染症対策のために各活動が制限される中、地域との交流が途絶えないようにポストカードや写真付きカレンダーを送るなど意見を取り入れ、運営に反映させるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが話しやすい雰囲気づくりに努め、利用者の状況に合わせて管理者はスタッフのフォローが出来る環境づくりを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修にはいつでも参加できるように機会を設けている。また、研修後は、報告会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネジャー協議会や、行政機関の行う研修会に参加し、情報交換や連携を深める機会をつくっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の言動や、表情、行動を観察し、受け止めご本人の安心に繋がられるよう努め、御家族から頂いた情報も踏まえて信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時は環境の変化にご本人は勿論、ご家族も戸惑う事も多いので、ご家族が遠慮なく要望や意向が言えるように声かけを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」に素早く対応できるよう、常に最善を尽くすように努めている。ご家族に報告しながら他の事業所とも、連携している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において、洗濯物置や、干し、お盆拭き新聞折り等、得意な事を手伝ってもらい、その人の出来る事を発揮してもらい、お互いに支え合う関係づくりに取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所前より、利用者を介護して行く仲間としての協力関係をつくるため、情報交換を密にとり、また、協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	高齢化と共に、馴染みの人との交流は難しくなっているが、御家族との絆が途切れぬようリモート面会を行ったり、ポストカードを送ったり、行事への参加の様子を写真付きのカレンダーにして発信している。	手紙などのやり取りをはじめ、リモートで面会するなど地域や馴染みの人との関係継続の支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりお気に入りの席があり、利用者同士が自由に会話できる環境を作っている。必要時には、職員が仲を取持ち支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	頻繁ではないが、ホームにて看取った利用者様のご家族が、定期的に玄関にプランターで育てた花を飾って下さったり、利用者の好物を差し入れて下さったり、ホームでの暮らしがどうであったか?など、振り返り、今後活かす機会にもなっている。また、ご家族への労いの言葉をかけ支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望が叶えられるようご家族と連絡調整している。言葉での表現が難しい方には、行動や、表情などから、思いを汲み取りながら支援している。	センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント)を使い24時間内での行動や表情等から本人の意向が把握し、ケアの実践に反映できるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に十分な聞き取りを行い、入所後も気付いたことや、迷った時には、ご家族に確認しながら、ご本人が、安心して暮らせる様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の生活パターンやペースを大切にしながら本人の能力や心身の状態を考慮しながら現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者の意見を参考にしながら、また、全スタッフと情報を共有しながら、一人ひとりの具体的なプランを作成している。	排せつや身体ケアの実践をはじめ、職員全体で利用者個々の状況を把握しケアの実践に反映できる体制づくりに取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はその時の状態が分かり易い様に具体的に記録し、状態変化に柔軟に対応できるように気づきや変化にはラインを引き、振り返りやモニタリングに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要なニーズに対し柔軟に対応できるように管理者が、スタッフのフォローに入れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の住民や地元消防団と連携し防災訓練等を行っており、台風の時には、巡回に、立ち寄ってくれることになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と医療連携体制にあり、必要時には専門医への紹介も可能である。迅速な対応にて、適切な医療が受けられる体制である。	併設した医療機関があり、必要時には迅速に対応できるよう努めている。また専門医への受診など、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤し、夜間もオンコール体制である。急変時にも、速やかに対応している。また、他2名准看護師を配置している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が、看護師、ケアマネジャーを兼ねており、入退院時の連携体制も整っている。退院時は、病院へ面会しスムーズに生活出来るよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時から、重症化した場合について、看取りについて、文書化し、契約時に説明している。状態変化時には、その都度、ご家族、医師を交えて、インフォームドコンセントを十分に話し、納得いく支援に努めている。	入所時に看取りについての説明や書面での同意を得ている。職員も看護師が数名いて併設した医療機関と連携している。家族が付き添う際の環境を整えるなど支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には、管理者へ報告し指示を仰ぐ。急変時の対応、応急処置については、実践出来るよう、業務会議等で繰り返し確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	風水害を想定した防災訓練を地域の消防団や地域住民の協力をいただき、実施している。また、必要時は地域の消防団が巡回してくれるように連携を図っている。	地域住民や地域消防団と協力して防災訓練を実施している。緊急連絡網も併設機関や近隣住民の方々との間で作成している。備蓄は5～7日間分保管するなど災害対策に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご家族の了承を得て、その人にとって、呼ばれた名前でも声かけしている。職員は、常に、利用者一人ひとりを尊重し、対応している。	慣れ親しんだ呼称や本人のペースに合わせた声掛けを行っている。また排せつや入浴の際も一人ひとりを尊重し、プライバシーの確保も大切にしながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のペースに合わせ、分かり易い言葉や、言葉の理解が困難な方には、身振り手振りを交えながら、意思の疎通を図り、自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決して無理強いしない様、本人のペースを大切にしている。ご本人の希望が叶えられるよう寄り添いながら支援に努める。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室担当を中心に、ご家族と連携を図りながらその季節にあった衣服の入れ替えや、調整を行い、毎日、好きな洋服が選べるように声かけしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの出来る事を大切にし、テーブル拭きや、お盆拭きを行ったり、畑の野菜を収穫したり、簡単なおやつを作ったりしており、収穫の楽しみを味わえるよう支援している。	利用者の能力に合わせた役割分担があり、その日の状況で調整している。また地域の方の協力でホームの畑でいろいろな野菜を収穫し調理するなど、食事が楽しみなものになるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立をもとに、栄養バランスが摂れるよう、摂取状況等把握している。また、ご本人の状態に合わせて食事形態を調整している。水分量チェックも行い、脱水予防に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、お茶にてうがいを行っている。口腔内や義歯のチェックも行い、毎晩洗浄剤にて消毒している。出来ない方は、口腔スポンジや保湿ゼリーで、清潔保持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、個々の排泄パターンや行動を見極めながら、トイレ誘導し、自立に向けた支援を行っている。夜間帯はポータブルトイレを使用したり、個々に合ったパットを使い、皮膚トラブル等による不快をなくし、安全、安眠への慮をしている。	個々の排せつパターンや行動を見ながらトイレ誘導し、布パンツへの改善に取り組んでいる。またオムツ類の使用も個々に合ったものを選び、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく自然排便が出来る様、ゴボウ茶を提供したり、運動や、マッサージを行っている。しかし、必要な方には、緩下剤を使用している。個々の状況に合わせ、ケアしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日置きの入浴を実施。浴槽に入り、ゆったりリラックス出来るよう支援している。介護度の高い方も、特浴にて、心地良さを感じていただけるよう支援している。	本人のできる場所はしてもらい、時間をかけてゆっくり入浴している。特浴があり、重度の方も浴槽につかることができるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠状況を把握し、観察を行い、入眠の妨げになっているであろう原因を推測し、安眠出来るように支援する。温かい飲み物を提供したり、日中の過ごし方等、工夫する。必要時には、眠剤を服用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をファイルし、いつでも確認できる状態にしてある。必要時には、分かりやすく、掲示し全職員に伝えるようにしている。異常を感じたら何時でも、看護師に報告、相談できる体制にある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、個々の状況にあった作業等一緒に行い、活躍できる場面を作り出すよう働き掛け、必ず、「有難う」の言葉を掛けるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により、難しい状況ではありますが、状況がゆるせば、自由に出かけられるよう支援できる状況である。敷地内は花見の季節には、介護度の高い方も、楽しめるよう支援している。	以前は近くのドラッグストアに買い物やレストランに食事に行くこともあったが、感染対策のため、敷地内での畑での収穫や花見などを楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の意向をくみ、お金を持って居る事で安心できる方には、ご家族の許可を頂き、持っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方におられる親族から贈り物が届いたり、お手紙が届いた時には、電話をかけたり、お礼を伝えられるよう、支援している。その際、状況報告などし、安心して頂けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール、居室から、季節の花が眺められるようになっている。季節を感じられ、閉塞感のない、ゆったり寛げる空間である。ベランダや、各出入り口には、スロープが設置しており、安全に出かけられるようになっている。	ホールの広い窓から四季折々の草花や畑が見渡せ、また太陽の日差しが良く入り、居心地よくゆったりと過ごせる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置、お気に入りのぬいぐるみ、クッションなどを置き、それぞれが、好きな場所でゆったり、心地良く過ごせる様に環境を調整している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人が安心できるよう、ご家族の写真や、好きな動物のポスターを貼ったりして安心して、過ごせる様環境づくりをしている。	利用者が慣れ親しんだ家財や家族の写真、ポスターを飾って安心して生活できるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや、お部屋が分からず、迷ってしまう方は、分かりやすく表記したり、目印を作り、工夫している。		